

今年、賀川豊彦献身100年。前号に引き続き今回は、6月27日のユニ・ボラ塾で学習した講師の西義人さん(賀川豊彦献身100年記念神戸事務局顧問)のお話から紹介します。

② 賀川豊彦の生涯と基本思想

賀川は1888年、神戸で生まれ、4歳で父を5歳で母を失った。育った徳島でわが子のように慈しんでくれるアメリカ人宣教師に出会い、16歳で洗礼を受け、牧師になろうと明治学院に進学、路傍伝道を始めた。

21歳、肺結核の悪化する中、神戸のスラム街に住み、病人保護や無料葬式、子どもたちの遠足などの救貧活動を実践。26歳でアメリカ留学。ニューヨークで労働者のデモを見て、貧しい人々を救うのは援助ではなく自らの力で救うしかない、と、帰国後再びスラム街へ。労働運動、農民運動、生協運動、幼児教育、共済組合、医療組合などの救貧から防貧、自立への仕組みづくりに取り組んだ。ベストセラーの『死線を越えて』を



神戸スラムでの正月



結婚当時の賀川とハル

はじめ、300冊に及ぶ著書、海外講演、戦後日本の再生、世界平和などの活動は、シュバイツァー、ガンジーとともに三大聖人と称され、二度目のノーベル平和賞候補者に推薦されながら、72歳でその生涯を終えるまで続いた。

賀川の活動は多様だが、つねに社会的弱者のためのもので「愛は私の一切である。愛は人のためにすること」と、その根幹には基本思想の『愛』があった。

それは賀川を「生協の父」とする生活協同組合にも引き継がれ、コープこうべでは「一人は万人のために、万人は一人のために」の愛と協同の思想として生き続けている。

